

上演プログラム

世界から優れた舞台表現に集まってもらいます。さまざまな「からだ」、「言葉」、「動き」、「集中」をお楽しみください。「人間はすごい」「すごく変!」「おもしろい!」と感じてもらえる作品ぞろいです。

鳥の劇場「母アンナの子連れ従軍記」

演出:中島諒人 作:8,プレヒト
9月3日(金)19:30-5日(日)14:00
各回上演後にアフタートークがあります

鳥の劇場「劇場」

鳥の劇場は鳥取県鳥取市鹿野町の高校になった学校と給養館を劇場に改造して、演劇活動、劇場運営を行う民間の芸術団体。鳥の劇場という名前、劇場名でもあり、場の名前でもある。創作活動を中心にすえて県外や海外でも上演をする一方、招聘事業や教育普及事業も併行させ、「公共の場」としての劇場の姿を模索している。

鳥の劇場「母アンナの子連れ従軍記」

演出:中島諒人 作:8,プレヒト
9月3日(金)19:30-5日(日)14:00
各回上演後にアフタートークがあります

鳥の劇場「劇場」

鳥の劇場は鳥取県鳥取市鹿野町の高校になった学校と給養館を劇場に改造して、演劇活動、劇場運営を行う民間の芸術団体。鳥の劇場という名前、劇場名でもあり、場の名前でもある。創作活動を中心にすえて県外や海外でも上演をする一方、招聘事業や教育普及事業も併行させ、「公共の場」としての劇場の姿を模索している。

ケチャップ・リノ・ダンス「リノのケチャップと100人の子どもたち」

構成:振付:イクトゥット・リノ
出演:イクトゥット・リノとケチャップ・リノダンス+事前ワークショップに参加の鹿野の小学生、一般市民のみなさん
9月4日(土)・5日(日)18:30

国外特設会場

「リノのケチャップ・ダンス」は、バリ島ウブドにあるアルマ美術館の野外会場で、新月と満月の夜のみ上演されています。この舞台は、リーダーであるイクトゥット・リノによる男性出演者約100名による現代的な演出のボイスとダンス、他のケチャップは観ることでできない火の境が飛び交う迫力あるステージングで、大変な人気を集めています。今回は特別にこのリノさんとグループメンバーの名をお招きし、鳥取のミスター・熊につりあげた鹿野版ケチャップ・ファイヤーダンスを上演します。

ケチャップ・リノ・ダンス「リノのケチャップと100人の子どもたち」

構成:振付:イクトゥット・リノ
出演:イクトゥット・リノとケチャップ・リノダンス+事前ワークショップに参加の鹿野の小学生、一般市民のみなさん
9月4日(土)・5日(日)18:30

国外特設会場

「リノのケチャップ・ダンス」は、バリ島ウブドにあるアルマ美術館の野外会場で、新月と満月の夜のみ上演されています。この舞台は、リーダーであるイクトゥット・リノによる男性出演者約100名による現代的な演出のボイスとダンス、他のケチャップは観ることでできない火の境が飛び交う迫力あるステージングで、大変な人気を集めています。今回は特別にこのリノさんとグループメンバーの名をお招きし、鳥取のミスター・熊につりあげた鹿野版ケチャップ・ファイヤーダンスを上演します。

SCOT「お国と五平―別冊 谷崎潤一郎」

演出:鈴木忠志 原作:谷崎潤一郎
9月11日(土)・12日(日)14:00
11日(土)の上演後にスペシャルトーク、12日(日)の上演後にアフタートークがあります

鳥の劇場「劇場」

大義名分とは何か。お国への恩恵ゆえに、その夫を闇討ちに仕えた友之丞。お国と家来の五平は仇討ちの旗に出る。その途中で不義の仲とある二人。大義名分の陰に隠された地元の戦争が終わってはいれないと夢想しながら、行為行に耽る。5日目の朝、ホテルを出て、もう会わない約束で別れたとき、戦争はまだ終わってなかった。要約すればそれだけの物語を、複雑な語り手の構造と演じる主体の移行など独特の手法で伝える。その表現手法の斬新と現代の東京に生きる若手大の感覚を鮮明に描いたことで、国内外問わず大賛賞を受けたチェルフィッチュの代表作。

SCOT「お国と五平―別冊 谷崎潤一郎」

演出:鈴木忠志 原作:谷崎潤一郎
9月11日(土)・12日(日)14:00
11日(土)の上演後にスペシャルトーク、12日(日)の上演後にアフタートークがあります

鳥の劇場「劇場」

大義名分とは何か。お国への恩恵ゆえに、その夫を闇討ちに仕えた友之丞。お国と家来の五平は仇討ちの旗に出る。その途中で不義の仲とある二人。大義名分の陰に隠された地元の戦争が終わってはいれないと夢想しながら、行為行に耽る。5日目の朝、ホテルを出て、もう会わない約束で別れたとき、戦争はまだ終わってなかった。要約すればそれだけの物語を、複雑な語り手の構造と演じる主体の移行など独特の手法で伝える。その表現手法の斬新と現代の東京に生きる若手大の感覚を鮮明に描いたことで、国内外問わず大賛賞を受けたチェルフィッチュの代表作。

チェルフィッチュ「三月5日間」

作・演出:岡田利規
9月11日(土)・12日(日)17:00
各回上演後にアフタートークがあります

鳥の劇場「スタジオ」

アメリカがイラクへの空爆を開始した。2003年3月20日前後の東京が舞台。六本木のライブハウスで出会った男女が、そのまぶさのラブホテルへ行き、そこで5日間を過ごす。2人は、その5日間の間戦争が終わってはいれないと夢想しながら、行為行に耽る。5日目の朝、ホテルを出て、もう会わない約束で別れたとき、戦争はまだ終わってなかった。要約すればそれだけの物語を、複雑な語り手の構造と演じる主体の移行など独特の手法で伝える。その表現手法の斬新と現代の東京に生きる若手大の感覚を鮮明に描いたことで、国内外問わず大賛賞を受けたチェルフィッチュの代表作。

チェルフィッチュ「三月5日間」

作・演出:岡田利規
9月11日(土)・12日(日)17:00
各回上演後にアフタートークがあります

鳥の劇場「スタジオ」

アメリカがイラクへの空爆を開始した。2003年3月20日前後の東京が舞台。六本木のライブハウスで出会った男女が、そのまぶさのラブホテルへ行き、そこで5日間を過ごす。2人は、その5日間の間戦争が終わってはいれないと夢想しながら、行為行に耽る。5日目の朝、ホテルを出て、もう会わない約束で別れたとき、戦争はまだ終わってなかった。要約すればそれだけの物語を、複雑な語り手の構造と演じる主体の移行など独特の手法で伝える。その表現手法の斬新と現代の東京に生きる若手大の感覚を鮮明に描いたことで、国内外問わず大賛賞を受けたチェルフィッチュの代表作。

とりととダンスとつくるダンスアート作品「とりととダンス」

ディレクション:岩瀬多喜子 アシスタント:太田ゆかり(Dance Theatre LUDENS)
出演:とりととダンス
9月19日(日)・20日(月)・夜15:00
各回上演後にアフタートークがあります

鳥の劇場「スタジオ」

昨年の鳥の演劇祭で結成された地元の方々を構成メンバーとする「とりととダンス」。今年はダンスアーティスト岩瀬多喜子さんをディレクターに迎え、8月から作品づくりに取り組んでいます。個々の出演者のからだと染み込んだ記憶を掘り起し、それを積み重ねていくことで丹念に動きを探しだしていく。あるいは、個々の記憶を全体で共有することで、そこから新たなメンタリタを紡いでいく。ごく普通の人の心から、鹿野という小さな個の場所から、世界に通じるコミュニケーションダンス―ダンスアート作品を投げかけていきます。

とりととダンスとつくるダンスアート作品「とりととダンス」

ディレクション:岩瀬多喜子 アシスタント:太田ゆかり(Dance Theatre LUDENS)
出演:とりととダンス
9月19日(日)・20日(月)・夜15:00
各回上演後にアフタートークがあります

鳥の劇場「スタジオ」

昨年の鳥の演劇祭で結成された地元の方々を構成メンバーとする「とりととダンス」。今年はダンスアーティスト岩瀬多喜子さんをディレクターに迎え、8月から作品づくりに取り組んでいます。個々の出演者のからだと染み込んだ記憶を掘り起し、それを積み重ねていくことで丹念に動きを探しだしていく。あるいは、個々の記憶を全体で共有することで、そこから新たなメンタリタを紡いでいく。ごく普通の人の心から、鹿野という小さな個の場所から、世界に通じるコミュニケーションダンス―ダンスアート作品を投げかけていきます。

カンパニー・ジル・ジョバン「Black Swan」

振付:ジル・ジョバン
9月19日(日)・20日(月)・夜17:00
各回上演後にアフタートークがあります

鳥の劇場「劇場」

ジル・ジョバンは、黒鳥(black swan)のイメージを哲学者カール・ポパーから得ている。それは、我々の現実認知が極端に不安定なものになっていることを象徴している。「何もかも疑すような不思議さ」を取り入れることにより、彼が我々のまなざしや習慣は変化をもたらそうとする。驚きを感じると、試みることや新しい子どもの世界に飛び込むようになる。「Black Swan」では、言葉から解放された振付による記述が試みられている。そしてその試みか、我々がこの作品に引きつける。我々が感じるの動きそのもののあり。その動きが生み出す「ありえない物語」(the improbable)である。

カンパニー・ジル・ジョバン「Black Swan」

振付:ジル・ジョバン
9月19日(日)・20日(月)・夜17:00
各回上演後にアフタートークがあります

鳥の劇場「劇場」

ジル・ジョバンは、黒鳥(black swan)のイメージを哲学者カール・ポパーから得ている。それは、我々の現実認知が極端に不安定なものになっていることを象徴している。「何もかも疑すような不思議さ」を取り入れることにより、彼が我々のまなざしや習慣は変化をもたらそうとする。驚きを感じると、試みることや新しい子どもの世界に飛び込むようになる。「Black Swan」では、言葉から解放された振付による記述が試みられている。そしてその試みか、我々がこの作品に引きつける。我々が感じるの動きそのもののあり。その動きが生み出す「ありえない物語」(the improbable)である。

鳥の劇場「おおよそ70年前、鳥取でも戦争があった。戦争を知らないわたしは、その記憶をわたしの血肉にできるだろうか。」

構成・演出:中島諒人
9月24日(金)14:00-25日(土)17:00
各回上演後にアフタートークがあります

鳥の劇場「スタジオ」

鳥取の人の太平洋戦争の記憶がつづられた手記と、劇場のある鳥取市鹿野町出身の戦没者308名の方の名簿、スペインの作家アラバルの「戦場のベケット」の3つで構成された作品です。4人一般市民のみなさんと鳥の劇場の俳優でつづります。演劇のフィクションの力と実在にあったことが響き合って、悔しさ、理不尽さ、無念さが浮かび上がります。

鳥の劇場「おおよそ70年前、鳥取でも戦争があった。戦争を知らないわたしは、その記憶をわたしの血肉にできるだろうか。」

構成・演出:中島諒人
9月24日(金)14:00-25日(土)17:00
各回上演後にアフタートークがあります

鳥の劇場「スタジオ」

鳥取の人の太平洋戦争の記憶がつづられた手記と、劇場のある鳥取市鹿野町出身の戦没者308名の方の名簿、スペインの作家アラバルの「戦場のベケット」の3つで構成された作品です。4人一般市民のみなさんと鳥の劇場の俳優でつづります。演劇のフィクションの力と実在にあったことが響き合って、悔しさ、理不尽さ、無念さが浮かび上がります。

劇団ティダ「ハルツの物語」

作・演出:ペ・ヨンブ
9月24日(金)22:00-25日(土)・26日(日)14:00
25日(土)の上演後にアフタートークがあります

鳥の劇場「劇場」

昔あるところに、老夫婦が二人きりで住んでいた。さびしかった二人は、子どもを願った。ある日、木の精が「ハルツ」という名の子に二人に授けた。彼らはとても喜び、ハルツのためにできることは何でもした。けれども、木の精が精がしたので、炊いた米が炊けては決して食べなかった。ハルツはどんどん大きくなり、ある日、炊いた米をほしがった。老夫婦がしかたなく食べさせると、ハルツは空腹を感じるようになった。彼らは家中のものを食べ始めたが、食べるほどに空腹を感じた。彼らは家を出て、世界中あらゆるものを食べ始めた。が、何も彼らの空腹を止められなかった。

劇団ティダ「ハルツの物語」

作・演出:ペ・ヨンブ
9月24日(金)22:00-25日(土)・26日(日)14:00
25日(土)の上演後にアフタートークがあります

鳥の劇場「劇場」

昔あるところに、老夫婦が二人きりで住んでいた。さびしかった二人は、子どもを願った。ある日、木の精が「ハルツ」という名の子に二人に授けた。彼らはとても喜び、ハルツのためにできることは何でもした。けれども、木の精が精がしたので、炊いた米が炊けては決して食べなかった。ハルツはどんどん大きくなり、ある日、炊いた米をほしがった。老夫婦がしかたなく食べさせると、ハルツは空腹を感じるようになった。彼らは家中のものを食べ始めたが、食べるほどに空腹を感じた。彼らは家を出て、世界中あらゆるものを食べ始めた。が、何も彼らの空腹を止められなかった。

鳥の演劇祭ショーケース

9月17日(金)・18日(土)、11演目連続上演の2日間。

各演目の開演時間は、ウェブと別チラシでご案内します。

鹿野往來交流館

日本・東京 TOKYO, JAPAN

花傳[KADEN] Theatrical Art Company
「俊寛 そして 出家とその弟子(死ぬるもの)」
KADEN Theatrical Art Company
SHUNKAN and The Priest and his Apprentice
「緋矢が舞い、花を伝える」というコンセプトに基づき、「現代の地獄」の確立を目指し活動を行う。同時に、師匠の地獄に授け伝承や固有の文化との融合も模索。それらを土台とした身体と言葉を駆使した数ある舞台や、訓練による高い身体性には定評がある。数々のフェスティバルに参加、精力的な活動を展開している。

日本・茨城 IBARAGI, JAPAN

百景社
「バーサよりよろしく」
Hyakketsuya
Hello From Bertha
演劇は「場」の芸術であるという理念のもと、野外公演や田んぼでの公演などー劇場空間を模範としたダンス表現を考る者達が集まり活動を開始。以後「旅するダンス」と題して年4.5回の国内巡回、海外を含む公演活動を展開。「未来を志向するノスタルジア」をコンセプトに、見る人が共感できる作品の提供を目指している。

日本・東京 TOKYO, JAPAN

マドモアゼル・シネマ
「赤い花 白い花」
Mademoiselle Cinema
Red flower, White flower
東京・神楽坂の小劇場セッションハウスを拠点とする舞踊団。1993年、振付の伊藤直子を中心に、新たなダンス表現を考る者達が集まり活動を開始。以後「旅するダンス」と題して年4.5回の国内巡回、海外を含む公演活動を展開。「未来を志向するノスタルジア」をコンセプトに、見る人が共感できる作品の提供を目指している。

日本・兵庫 HYOGO, JAPAN

アンサンブル・ゾネ
「Red / Falkenschrei ―鷹の声―」
Ensemble Sonne
Red / Falkenschrei
1993年ドイツFolkwang芸術大学舞踊科卒の同窓志子により設立。現代に生きる私たちの共通の身体を通して人間の存在を問う作品づくりを目指し、年に1作品のペースで作品を発表している。1996、98、04年ドイツ・デュッセルドルフ日本ブル・フィルム・フェスティバルで最優秀作品賞を受賞。近年は高坂アキや内藤知久とのコラボレーションや即興舞を行う。

日本・埼玉 SAITAMA, JAPAN

佐成哲夫
「断片ロック」
Tetsuo Sanari
Fragment rock
SPAC振付コンクール2001最優秀賞受賞。以後、様々な場面で即興性のあるソロパフォーマンスを中心に活動。また、Dance and Media Japanと共同での作品制作をはじめ、費ジャンルとの交流による展覧会「スレ」のような感覚は、ダンスを生み出すきっかけの一つになっている。

日本・東京/愛知 TOKYO/AICHI, JAPAN

Theatre Company shelf
「新作(タイトル未定)」
Theatre Company shelf
New work・Title undecided
東京・名古屋などに拠点を活動するカンパニー。俳優の「語り」に力点をあきつつ、古典、近代戯曲を主な題材として舞台作品を制作している。代表作は矢野龍児。2008年8月所属後の川淵俊子が料理演劇コンクール2008<最優秀演劇人賞>を受賞。

日本・東京 TOKYO, JAPAN

第七劇場
「班女」
Dainanekijyo
HANJO
1999年創設。日本の伝統芸能を発展させた力強い身体性と美しい空間造形を重視し、コンテンポラリーダンスや舞踏の要素を加え、言語にとられない「国境を超えることができる舞台作品を製作。日本国内各地での活動のほか、海外のフェスティバルに招聘されるなど常に発展の場をはいならぬ空間の出会いを求め続けている。

シンポジウム・トーク・レクチャー

シンポジウム・創造都市鳥取を夢見て

鳥取がもっと楽しい元気な都市になるために、創造性を軸にしてみることができるとでしょう。創造都市研究の日本における第一人者、佐々木雅幸氏をお招きしてお話をうかがいます。その後は、佐々木氏に師事して創造都市について研究している鳥取市出身の辻堂大郎氏にも加わっていただき、鳥取の現状を踏まえながら、やれそうなこと、やるべきこと、やれたらと夢見ることなどを語り合えたいと思います。

シンポジウム・トーク・レクチャー

シンポジウム・創造都市鳥取を夢見て

鳥取がもっと楽しい元気な都市になるために、創造性を軸にしてみることができるとでしょう。創造都市研究の日本における第一人者、佐々木雅幸氏をお招きしてお話をうかがいます。その後は、佐々木氏に師事して創造都市について研究している鳥取市出身の辻堂大郎氏にも加わっていただき、鳥取の現状を踏まえながら、やれそうなこと、やるべきこと、やれたらと夢見ることなどを語り合えたいと思います。

三徳山投入堂にのぼれのぼれのぼれ!

9月5日(日)9:00〜12:00 ※雨天中止
案内:宮内町 宮内・山田長俊

知る、飲む、うまい!とどりの日本酒

9月11日(土)19:30〜21:30
案内:谷本酒店・谷本福正
鳥取のうまいもので忘れてはならないのが日本酒。専用のセラーを構え、日本酒の販売力を入れている谷本酒店さんに、鳥取の日本酒について教えていただき、おすすめの商品を味わいます。劇場のある鹿野町のお酒、青谷町の山根酒造場で作られた「日置酒 大吟醸すじ」は、今年の全国新酒鑑評会で金賞を受賞しました。その山根酒造社長、山根さんにもお越いただき、こだわりを伺います。

コーヒー職人・まる達、コーヒーを語る

9月12日(日)10:00〜12:00
案内:まる達 コーヒー・田中達也

海女さんに海の豊かさを教えてもらえる、すてき!

9月20日(月・祝)9:00〜12:30
案内:湊泊港組合・長門 守
夏泊海岸には、安土桃山時代から伝わる海女さんによる漁の伝統があります。この伝統が残るのは、山陰地方でここだけです。日本海の波濤が作り出した、ごつごつとした男性的な趣の「長尾島」で、現役の海女さんと一緒に磯歩き。海女さんの知恵に感服しながら、絶景の美しさと海の豊かさを体感してください。

すごいぞ! とどりの民藝運動

9月20日(月・祝)9:30〜12:15
案内:財団法人鳥取県民芸術館常務理事・本谷清人
「用の美」を提唱した民藝運動は、大正時代に興いました。鳥取では「民藝の母」と称された吉田璋也がさまざまな活動を行い、大きな業績を残しました。今や鳥取の民藝は全国から注目を集めています。鳥取の民藝運動の興りから現在の継承者に至るまで、鳥取県民芸術館の木谷さんにお話を伺い、その魅力に迫ります。すてきな民藝の器で昼食を食べようというおやつつきです。

月夜の鳥取砂丘を歩く、銀の光を浴びて

9月23日(木・祝)19:00〜21:00 ※雨天中止
案内:とっとり砂丘ネイチャーゲームの会
鳥取がほたる景勝地。鳥取砂丘。昼間の雄大な姿もいいのですが、今回は専門ガイドの方の案内により、幻想的な月夜の砂丘を旅します。まさに「月の沙洲」。大人も子どもとも関係なく、特別な知識も必要とせず、それぞれの感性で砂丘を身体いっぱい感じてください。